

# ひかり

Kikuna  
Memorial  
Hospital  
News Letter

vol.90

2016.1

ご自由にお持ちください

- 新しい年を迎えて
- 看護部だより vol.61
- おくすりのはなし vol.16
- KMH-NEWS-
- KMH-TOPIC-

挨拶頭

# 明けましておめでとうございます

# 新しい年を迎えて

今、我々民間病院は「総医療費抑制」という大津波の前に晒されております。何等対策を講じないまま漫然と現状維持をしているだけでは、押し寄せる濁流に呑み込まれてしまいます。地域医療構想の中で高度急性期のみならず一般の急性期医療を担うと宣言した病院は、日々高難度の手術や治療をこなし、且つ良好なアウトカムを保ちながら平均在院日数を徹底的に短縮する事が求められております。

これを実現するためには日々の弛まない研鑽の下に医療レベルを向上し続ける仕組みとそれを実践する不断の努力が不可欠となります。これらが組織をあげて成し遂げられなければ、急性期医療を担う資格なしとされ撤退を余儀なくされます。そして地域包括ケアの中でその存立基盤を維持するためには、これらの結果を公表し前方・後方連携の医療・介護施設からの信頼を得なければなりません。この事を成し遂げた病院のみが津波から生残り、新たな段階へ進める様になりますが、その先も更なるハードルが長期に亘って待ち構えている事は必須と思われます。職員諸氏の奮起に期待致します。

本年も皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

理事長 **山本 登**

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

医療界を取り巻く環境は依然として厳しい状況です。昨年は、2025年に向けての地域医療構想策定が動き出し、医療事故調査制度も始まりました。当院の診療指標においては、昨年7月に新入院患者数が590人、10月に手術件数が210件といずれも過去最高を記録し、平均在院日数も昨年は11.2日と前年度を1.3日短縮しました。緊密な前方連携・後方連携の賜物だと思います。関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

私ども職員は、病院のミッションである「質の高い急性期医療を通して地域社会に貢献します」を念頭に、地域に必要とされる病院を目指し、地域と共に歩んで参りたいと思います。職員一同真摯に謙虚に邁進していく所存です。本年も皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

院長 **中山 宏幸**



副院長兼診療統括部長 **村田 升**



看護部長 **赤間 仁見**

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

4月より看護部長として、副看護部長と共に新たな看護部のスタートをきりました。早々に病院機能評価受審、ISO更新審査が続き、その準備に追われた上半期でしたが、自分たちが提供する医療・看護を振り返る良い機会となりました。日々スピードが求められることが多い急性期医療の中で、常に患者・家族の視点で考えることの必要性を強く感じました。10月には医療事故調査制度がスタートし、これまで以上に高い医療安全に対する意識が求められています。本年も職員一人一人が患者・家族の視点に立ち行動し、安全文化を醸成する組織へと成長していきたいと考えています。昨年同様皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

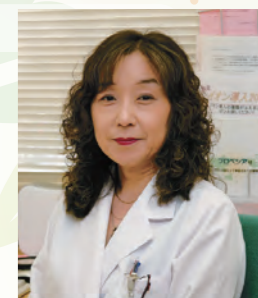
あけましておめでとうございます。

昨年は、地球規模の気候・地殻変動やテロの台頭と、心痛む荒ぶる1年でした。一方、ノーベル賞科学分野で日本人が複数・連続受賞し、世界への貢献が認められるという誇らしい事もありました。

医療の分野では、ips細胞を中心とした再生医療の臨床化への研究が盛んになっています。本院においても、検査室のアイルでは、日本で数少ない臍帯血や歯髄細胞のバンクを長年行っていますし、アンチエイジングセンターでは自己血に成長因子を加えたPRP療法を行い、医療界では副作用の少ないオーダーメイド医療も始まりました。科学は発達していますが、倫理感を忘れることなく医療へのさらなる応用が待たれます。

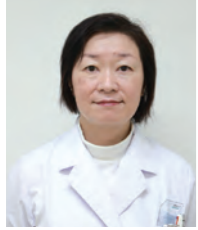
さて、本年は申年です。申と言えば徳川家康の「見ざる」「聞かざる」「言わざる」が有名ですが、医療人は「良く見る」「良く聞く」「しっかりと伝える」を肝に銘じて患者様と向き合わなくてはなりません。YMGでは、技術のみならず、医療人としてのクオリティの高い病院でありたいと考えています。

本年もよろしくお願い申し上げます。



アンチエイジングセンター長 **山本 芳子**





循環器センター長  
本江 純子

患者さんにとって、最適で高度な医療を提供できるよう真摯に取り組みたいと思います。また、丁寧な説明を心がけて行きます。本年も宜しくお願い申し上げます。



循環器センター部長  
武藤 光範

本年も救急病院循環器内科として24時間365日迅速な診療を行い、患者さんが10年後20年後に御元気でいられる治療を目指します。皆様に幸多い一年でありますように。



心臓血管外科部長  
尾頭 厚

地域の医療機関様より心血管疾患のご相談をいただくことが多くなって参りました。今年も引き続きその期待に応えられるよう、誠実さをもって地域医療に取り組んで参ります。



事務長  
飯田 浩一

明けましておめでとうございます。気を引き締め、使命感を以って頑張ります。本年も宜しくお願い申し上げます。



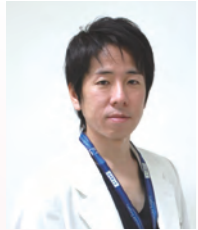
事務次長  
藤中 敏裕

旧年中も皆様よりご支援、ご教授を賜り、誠に有難う御座いました。お陰様で総務課2年目を迎えます。改めて総務課として励んで参りますので宜しくお願い申し上げます。



医療安全管理室長  
新村 美佐香

明けましておめでとうございます。本年も安全・安心な医療の提供を目指し、患者様にもチームの一員として参加していただきながら、チーム医療の推進に取り組んでまいります。



下肢静脈瘤センター長  
奈良原 裕

下肢静脈瘤は皮膚症状が出始めると治療に難渋します。当センターは、心臓血管外科と皮膚科とが連携することで、これまで以上に質の高い医療の提供を目指していきます。本年も宜しくお願い申し上げます。



外科部長兼  
消化器センター長  
嘉悦 勉

6名体制となり、急性期病院の外科としてますます地域医療に貢献できるように手術患者を受け入れていきますので、本年もよろしくお願い致します。



消化器内科部長  
西元 史哉

あけましておめでとうございます。ことしは便潜血から、救急、癌の末期まで地域住民の皆様のニーズに応えたいと思います。よろしくお願い致します。



感染制御部 師長  
(感染制御実践看護師)  
森山 由紀

明けましておめでとうございます。本年も周辺医療機関との連携・情報発信に努め、地域全体の感染制御活動に貢献してまいります。



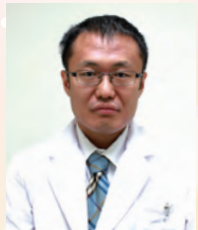
薬剤部 薬局長  
金田 昌之

本年も、患者様、地域の皆様に安心安全な医療を提供する為、薬剤師業務、医薬品安全に努めます。何卒宜しくお願い申し上げます。



臨床検査科 技師長  
武山 正勝

あけましておめでとうございます。今年も正確、迅速をモットーに検査に取り組んで行くように努めます。頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



胃・膠原病内科医長  
藤井 琢磨

あけましておめでとうございます。これからも丁寧な診療と適切な情報提供を心がけていきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。



整形外科部長兼  
YMG整形外科統括部長  
瀧川 宗一郎

四肢の骨折、手外科、スポーツ障害・外傷、関節外科等の手術を必要とする患者さんの治療に全力投球します。常勤整形外科医が増えました。今年もよろしくお願い致します。



脳神経外科部長  
石崎 律子

今年もいざという時に頼りになる医療体制の提供をし続けたいと思います。



画像診断部 技師長  
和田 吉弘

あけましておめでとうございます。本年も患者さまに安心と思いやりのこころを忘れずに信頼される画像診断部にして行きたいと思えます。よろしくお願い致します。



臨床工学科 技師長(代)  
大石 浩貴

明けましておめでとうございます。院内の医療機器が24時間いつでも安心して提供できるようスタッフ一同取り組んでまいります。本年も宜しくお願い致します。



栄養科 科長  
菊地 克巳

患者様に寄り添った栄養管理・栄養指導で、皆様の健康管理のお手伝いをさせていただきます。スタッフ一同、本年もよろしくお願い申し上げます。



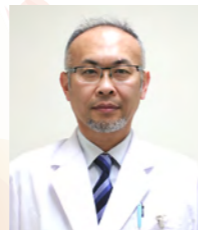
総合診療科部長  
庭野 元孝

患者さま川柳、「医者通い これも一つのボケ防止」。超高齢化社会を迎える東京圏で、地域に根差した高齢者医療を目指します。



放射線科部長  
劉 清隆

今年も検査は素早く確実に、そしてより正確な診断を目指していきます。また検査に加えIVRも含めて地域医療の中で皆様に貢献できるように頑張っていきます。



泌尿器科部長  
上杉 達也

明けましておめでとうございます。地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯努力させていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。



リハビリテーション科 技師長  
吉川 拓也

明けましておめでとうございます。患者様、ご家族様の期待に沿えるよう、思いやりのあるリハビリテーションを提供できるようスタッフ一同取り組んでまいります。



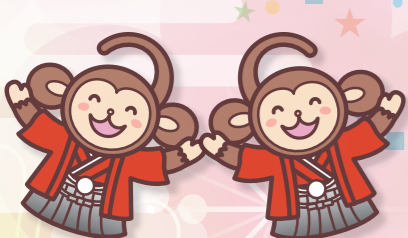
医事課 課長  
小関 秀和

あけましておめでとうございます。患者様が安心して受診していただけるよう医事課職員全員が思いやりの気持ちを忘れずに取り組んで参ります。



医療情報分析室 課長  
小野寺 豊

あけましておめでとうございます。本年も引き続き、医療の質を向上させるためにデータ等による医療支援を行いつつ、様々な改善を図りたいと思えます。



HAPPY NEW YEAR



皮膚科専門医  
川名 愛

あけましておめでとうございます。皮膚は全身の鏡といえます。小さな皮膚症状を見逃さず、患者様に寄り添った医療を目指します。



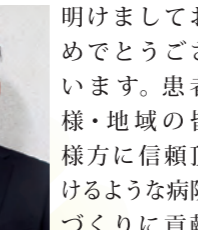
精神科専門医  
青山 恭子

あけましておめでとうございます。ストレスの多い日常なので、精神の健康管理から、様々な疾患に対して、患者様に寄り添った医療を行っていきたく思います。



診療録管理室 主任  
海野 幸子

あけましておめでとうございます。今年も質の高い医療に貢献できるよう診療情報の管理に努めて参ります。宜しくお願い致します。



地域医療連携室 主任  
秋元 康

明けましておめでとうございます。患者様・地域の皆様方に信頼頂けるような病院づくりに貢献できるよう努めて参ります。本年もよろしくお願い致します。



医療相談室 主任  
石井 祐美子

あけましておめでとうございます。本年も安心して受療頂けるよう医療相談室一同より一層の努力をしていく所存です。よろしくお願い致します。

# 退院支援室 退院支援専従看護師の役割

退院支援専従看護師  
角谷 智恵子

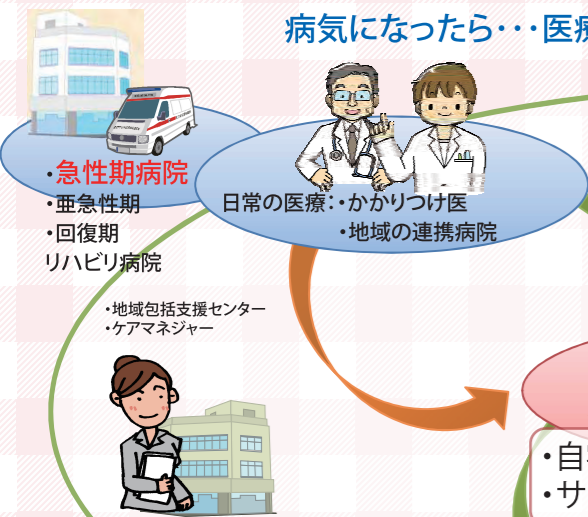


## 地域包括ケアシステム

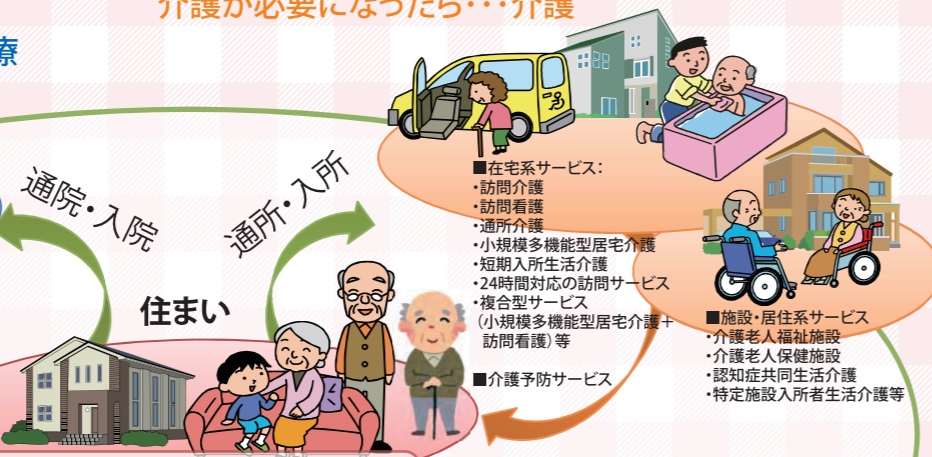
(厚労省/地域包括ケアシステムから引用)

「厚生労働省は、2025年(平成37年)を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。」

### 病気になったら…医療



### 介護が必要になったら…介護



### 住まい

・自宅  
・サービス付き高齢者向け住宅等

いつまでも元気に暮らすために…  
生活支援・介護予防



老人クラブ・自治会・ボランティア・NPO等

※地域包括ケアシステムは、  
おおむね30分以内に必要な  
サービスが提供される  
日常生活圏域  
(具体的には中学校区)を  
単位として想定

相談業務やサービスの  
コーディネートを行います。

当院は、  
この地域の  
急性期病院として、  
主に救急患者や  
検査・手術を必要とする  
患者様を受け入れています。



退院支援室では、  
入院時からその方がどのように地域で暮らしていくのか  
退院後の生活を考え、その調整・支援を行っています。

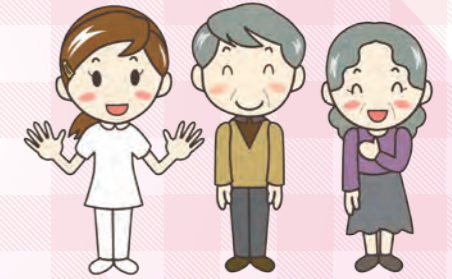
## 支援の実践



退院支援専従看護師

①入院時の情報から、その方に必要な支援の計画  
(退院支援計画書)を作成する。

②作成した計画をご家族に説明する。



## 共有



医療相談員



病棟看護師

③その計画を医療相談員、  
病棟看護師共有し、  
患者様に必要な支援を実践する。

退院支援において、  
・地域の病院・介護施設・地域包括支援センター等  
との連携は不可欠です。そこで、早期に退院しても  
その病状にあった医療が継続して受けられるように、  
連携病院や訪問看護ステーションと定期的に  
カンファレンスを行っています。



退院支援専従看護師は、  
患者・家族に対する様々な支援を行うため、  
総合相談窓口も担当しています。

4階ロビーにて、  
医者や病棟看護師には聞けないと思っている事や  
困っている事等、「何でも相談」を受け付け、  
各専門部門と連携しながら相談に対応しています。



入院生活だけでなく患者様の住み慣れた地域での生活を考え、これからも支援させていただきます。

# スキンケアについて

-おくすりの話 vol.16- 薬剤部 武 梨奈



冬を迎え寒さも厳しくなり、お肌が乾燥しやすい季節になってきました。  
今回は乾燥から皮膚を守る為のスキンケアの1つである保湿剤についてお話させていただきます。

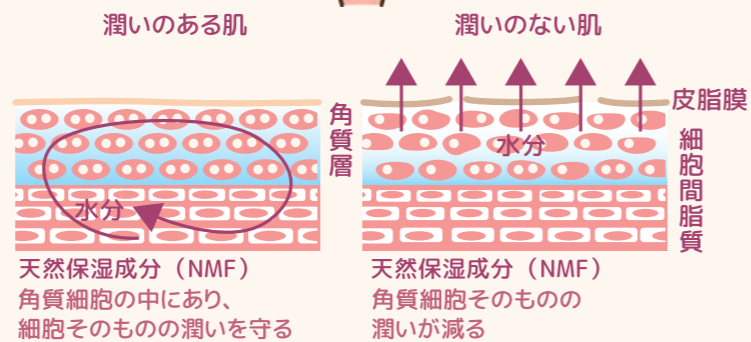
まず、スキンケアと言っても、これからお話する保湿剤や、ステロイド剤などお薬を使用する事だけではなく、次にあげた事も大切なスキンケアの1つです。

- 皮膚の清潔 ・毎日の入浴やシャワー
  - ・汗や汚れを落とす（強くこすらない）
  - ・洗浄力の強い石鹸やシャンプーは避け、十分にすすぐ
- 室内の環境整備 ・適した温度・湿度を保つ
- 皮膚を掻いて傷付けないように爪を短く切る



## ★皮膚のバリア機能とは・・・？

皮膚には角質層と呼ばれる部分で体内の水分の蒸発や外側からの異物の侵入や刺激を防いでいます。これをバリア機能と言います。  
しかし、皮膚の内側にある物質（皮脂・天然保湿因子・角質細胞間脂質）が不足してしまうと皮膚が乾燥した状態：ドライスキンになってしまいます。そうすると角質層がはがれて隙間ができてしまい、外からの刺激を受けやすくなります。  
また、皮膚のバリア機能が低下してしまうとアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患の原因にもなります。そこで保湿剤の出番です。



## ★保湿剤とは・・・？

皮膚の水分が逃げてしまわないようにフタをする、皮膚に水分を与える役割を持っています。

## ★保湿剤の種類

- ①ワセリン（プロペト®）  
皮膚表面に膜を張って水分の蒸発を防ぎます。ベタつきやすいのが難点です。
- ②尿素を含む薬剤（ウレパール軟膏®・ローション、ケラチラミン軟膏®・パスタロン軟膏®・クリーム・ローションなど）  
皮膚の乾燥や軽い炎症を改善させる効果があります。乾燥が強い部分や赤みがある部分に塗ると刺激があります。
- ③ヘパリン類似物質薬剤（ヒルドイド、ヒルドイドソフト・ローション）  
皮膚の乾燥を改善する効果があります。ベタつきが少なく塗りやすいです。

## ★OTC医薬品

薬局やドラッグストアで購入できるOTC医薬品でも様々な成分が含まれている保湿剤が販売されています。  
例えば、  
・ケラチナミンコーワ（尿素含有）・白色ワセリン（ワセリン）・HPクリーム（ヘパリン類似物質含有）などがその一部です。ご自身の症状や使用したい部位に合わせて薬局やドラッグストアの薬剤師または登録販売者に相談してみてください。

## ★剤形（軟膏・クリーム・ローション）の違い

剤形	使い分け	良い点	気を付ける必要もある点
軟膏	ジクジクしている部分	刺激が少ない	べたつき感がある
クリーム	乾燥している部分	吸収性が軟膏より良い	刺激が起こる可能性もある
ローション	乾燥している部分	吸収性が良い	刺激が起こる可能性もある

※好みや季節などに合わせて、使用感の良い剤形を主治医と相談してみましょう。

## ★使用するタイミングは・・・？

入浴後5分以内に塗る事が効果的とされています。  
入浴により皮膚の油分も洗い流されているのでそのままでは皮膚が乾燥してしまいます。  
水分が逃げないように保湿剤で皮膚にフタをしてあげましょう。  
5分以上経ってしまった時は化粧水などを吹きかけて皮膚を湿らせてあげてから保湿剤を塗ると効果的です。

## ★塗り方の目安

使用量としては、軟膏やクリームは人差し指の先～第一関節までの量を。ローションは1円玉大の量で手のひら2枚分の面積を塗る事ができます。

指先ではなく、手のひらで体のしわに合わせて塗ると皮膚に広がりやすいです。

## ★ステロイド外用剤と一緒に使う場合は・・・？

- アトピー性皮膚炎や湿疹などでステロイド外用剤も一緒に処方されている場合には
- ①保湿剤を皮膚全体に塗る
  - ②病変部分にのみステロイド外用剤を塗る
- ①、②の順番で塗ってください。

疾患の種類や部位、その範囲や程度によってみなさんの皮膚に適した外用薬を医師が選択して処方しています。自己判断で使い分けるのではなく、必ず医師、薬剤師にご相談下さい。  
スキンケア・保湿をしっかり行い、お肌を守って乾燥時期を乗り越えましょう。





NEWS1 11/4 復帰支援講習会 病院見学

横浜市の看護師復職支援事業として、10月27～29日・11月4・5日の5日間「復帰支援講習会」を開催しました。今回は、大倉山記念病院、新横浜リハビリテーション病院、山本記念病院との4病院合同で開催し、6人の方が参加してくださいました。



NEWS2 11/10 臨床検査科 院内勉強会

テーマ『乳腺の検査と診断』。乳腺検診の内容や癌と診断されるまでの検査の流れについて勉強しました。メディア効果により検診が増加傾向にはありますが、日本は欧米諸国に比べ乳がん検診率がかなり低いと言われています。乳腺を知り、検診についての患者対応の情報が増える良い機会となりました。



NEWS3 11/17 第134回 糖尿病教室

「糖尿病合併症の足病変について知覚異常～壊疽を予防するために」内科医 辻 正富先生  
「年末年始の食生活～注意点と工夫」管理栄養士 中山 由希子  
「フットケア」看護師 森下 真善美  
多数の質疑応答がありました♪次回の糖尿病教室は1/12（火）です。詳しくは院内ポスターまたはホームページをご覧ください。



NEWS4 11/19 第44回 Skill up Seminar & 病連の会 総会

地域の医療機関を招いて新横浜国際ホテルにて執り行いました。近隣より多くの医療機関の方々にご参加いただきまして、盛大に開催されました。



NEWS5 11/24 横浜市消防局救急隊との意見交換会

横浜市の救急隊との意見交換会を開催致しました。搬送した症例の経過をお互いに発表し、活発な意見交換を行うことができました。



NEWS6 11/26 消防訓練

夜間での火災を想定した消防訓練を実施いたしました。消火器の使用方も港北消防署の方々からレクチャーを受け、職員一同消防に対する意識が高まりました。



NEWS7 12/7 菊名病診連携カンファレンス

近隣医療従事者や院内職員など約60名にお集まりいただき、当院の循環器内科にご紹介いただいた患者様の症例発表を中心に意見交換を行いました。今後も定期的にこのようなカンファレンスを開催し、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。



NEWS8 12/14 第21回 公開市民講座

今年の3月からシリーズでお伝えしていた「こんな時には救急車」が最後となり、「頭痛」で脳神経外科部長 石崎医師が講演を行いました。途中リハビリテーション科の小柳さんによる肩こり体操などもあり、講演内容も分かりやすかったと参加された方々から好評を博しました。



NEWS9 12/16 キャンドルサービス

今回のキャンドルサービスは  
サンタがなんと9人！  
早く良くなるよう願っております♪



NEWS10 12/25 第5回 知って得する 栄養セミナー

「骨を丈夫にする食事 ～骨折による寝たきりを予防しましょう～」当院では外来患者様の待ち時間を利用して栄養セミナーを開催しています。昨今、骨粗鬆症→骨折→寝たきりに繋がる方が多いのが現状です。本セミナーでは、骨粗鬆症は予防が重要であり、そのための理想的な食事について説明しました。次回の栄養セミナーは2月を予定しています。



NEWS11 12/28 もちつき

毎年恒例のもちつきです。今回も職員が気持ちを込めて突いたお餅は地域のみなさまに美味しく召し上がっていただきました。



糖尿病教室 年間スケジュールのお知らせ

日付	テーマ	医師	栄養科・その他	医療技術者
1. 1/12 第2火曜日 13:15～	総論	辻先生	糖尿病の食事療法①「食事療法のポイント」	糖尿病の薬について 薬剤部
2. 3/22 第3火曜日 13:15～	治療	辻先生	シックデイ 看護部	糖尿病の運動療法について(実技) リハビリテーション科
3. 5/17 第3火曜日 13:15～	合併症① 神経・腎臓	腎臓内科 医師 (腎臓内科)	糖尿病の食事療法②「糖尿病性腎症の食事療法」	サプリメント・特定保健用食品について 薬剤部
4. 7/19 第3火曜日 13:15～	合併症② 心臓・血管・眼	循環器科 医師	糖尿病の食事療法③「外食の選び方のポイント」	糖尿病の検査について 臨床検査科
5. 9/20 第3火曜日 11:45～	ランチョン セミナー 事前申し込み制	辻先生	糖尿病の食事療法④「糖尿病食体験」～糖尿病の食事を食べてみましょう～	糖尿病の運動療法について(講義) リハビリテーション科
6. 11/15 第3火曜日 13:15～	合併症③ 足	辻先生	糖尿病の食事療法⑤「年末年始の食生活～注意点と工夫～」	フットケア 看護部

内容が都合により変更になる場合があります。詳しい内容や日時については院内ポスター掲示またはスタッフにお問い合わせください。

# 院内インフォメーション

KMH  
TOPIC

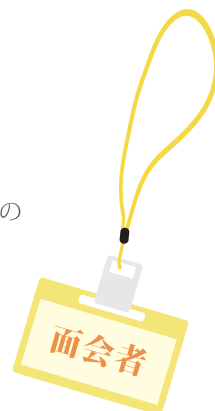
## 面会者カード着用のお願い

当院では、院内セキュリティ強化と入院患者様の診療の妨げにならないよう平成26年11月11日より、ご面会の方に面会者カードを着用していただくこととなりました。

### 〈面会手順〉

- 1 病棟ナースステーションにて面会簿にご記入ください。
- 2 面会者カードを一人一つ必ず着用してください。
- 3 面会終了後は面会簿に退室時間を記入し、面会者カードの返却をお願い致します。

面会者カードが確認できない場合は職員または保安員がお声かけすることがありますのでご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 感染防止対策へのお願い

インフルエンザ流行により、ご来院される全ての方へマスクの着用をお願いしております。

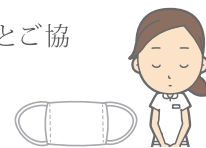
### 〈面会される方〉

入院患者様の面会を制限させていただいております。

- 面会は原則ご家族のみとし、必要最低限の人数でお願いします。
- ご家族であっても高校生以下の方の面会は原則お断りさせていただきます。
- 面会は短時間（10分程度）でお願いします。
- 病室への入室前及び退室後は手洗い・手指消毒の徹底をお願いします。

### 〈外来受診をされる方〉

- インフルエンザの症状（発熱・咳・咽頭痛）、胃腸炎症状（下痢・嘔吐）がある方は受付または外来職員へ声をかけてください。
- 感染拡大防止のため、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



今後状況が変わりましたら、随時ホームページまたは院内の掲示板でお知らせします。

（平成28年1月現在）

## 編集後記

明けましておめでとうございます。

今年のお正月は暖かな陽気でしたね。いつもと違う冬の気候で心配になります。

さて、1月号の表紙のテーマ「野菜・果物」に変わりました。職員から応募して頂いた写真を拝見しますと、多種多様な表情が見受けられます。今年1年!野菜・果物のようにフレッシュな気持ちで取り組んで参りたいと思います。

本年も宜しく願い申し上げます。

広報 根岸

## 当院の基本理念

私たちの病院の使命—Mission—

質の高い急性期医療を通して地域社会に貢献します。



日本医療機能評価機構  
認定病院 (Ver.6.0)



JQA-QMA14243  
ISO9001:2008  
認証取得病院



ピンクリボン運動  
を応援します。



地域医療支援病院  
菊名記念病院

〒222-0011 横浜市港北区菊名4-4-27  
TEL: 045-402-7111(代) FAX: 045-402-7331  
URL: <http://www.kmh.or.jp/> E-mail: [kikuna@kmh.or.jp](mailto:kikuna@kmh.or.jp)